

# 外部評価委員長による令和5年度博物館事業点検評価の外部評価総括

令和5年度の神戸市立博物館が掲げる「博物館使命の四大要素」への評価は以下の通りである。博物館の自己評価としては、「歴史と文化の継承と研究」A(優れている)、「歴史と文化への窓口」A、「人々とともに歩む」B(求められる能力や役割を果たしている)、「やさしさと安心の確保」Aである。外部評価では各項目AあるいはBであり、特別展・企画展等を含む「歴史と文化への窓口」についてはS(特に優れている)もあった。

令和5年度は、新型コロナウイルスの流行による様々な行動制限が解除され、博物館もようやく通常の活動を行うことができるようになった。特別展では、「ジブリパークとジブリ展」「神戸の文化財Ⅲ ～今伝えたい、私たちの宝・街・心・技～」 「Colorful JAPAN―幕末・明治手彩色写真への旅」が開催された。いずれも多くの観覧者に来ていただいたことは喜ばしい。

「歴史と文化の継承と研究」については、資料の受け入れ、保存、補修、展覧会準備、研究紀要刊行が順調に行われた。資料受け入れで特筆すべきものとして、「南波松太郎コレクション」2639件の追加寄贈があった。当館が誇る古地図を中心としたコレクションをより充実させるものとなり、令和7年2月～3月にはこれらの資料が展示公開される。『研究紀要』第39号では、神戸市域に所在する仏教絵画についての論考、博物館所蔵資料の紹介など着実に成果が公表されている。また、課題となっていたデジタルアーカイブの公開も進み、文化遺産オンラインに多数の資料が追加された。

「歴史と文化への窓口」については、前述の特別展が開催された。「ジブリパークとジブリ展」では、来館者のうち20歳未満と20歳代の数が46%にのぼり、若い世代の来館が目される。この企画は、若い世代が博物館に親しみを持つという点からも評価される。「神戸の文化財Ⅲ ～今伝えたい、私たちの宝・街・心・技～」は、地域の文化財を広く市民に紹介するものであった。常日頃公開されていない仏像や絵画などの作品を間近に鑑賞できることは博物館での大きな楽しみである。「Colorful JAPAN―幕末・明治手彩色写真への旅」では、幕末・明治期の生活・風俗をみる上でも貴重な資料が展示されたが、諸外国の人々が興味を持った日本の姿を考える上でも有益な展示であった。企画展・コレクション展・特集展示などをあわせて、年間を通じて企画が連続していることは学芸員の並々ならぬ活動の成果であり高く評価されるものである。

「人々とともに歩む」については、研究者を招いての講演会、学芸員による展示解説会などが活発に行われた。なかでも学芸員が学校へ出向いて行う連携授業は外部評価においてもきわめて好評であった。博物館周辺の歴史的な地域の見学とあわせて今後も様々な企画が望まれる。小学生が中心となるが、こうした時期から博物館に親しむことは、自主的な学びを身につける上でも重要である。

「やさしさと安心の確保」については、大規模な改修が行われ、外壁・空調・給水・照明設備などが更新された。来館者にとってよりよい環境作りが進展したことは評価される。ただ資料の増加に伴い収蔵スペースの確保などは今後の大きな課題であり、継続的、計画的な施設の整備が必要である。インフォメーション、カフェなど入口付近の導線の工夫の必要性についても指摘があった。また、震災30年をふまえて安全面でのさらなる取り組みが望まれる。

職員あげて様々な努力を積み重ねて事業が展開されており、市域内外の多数の利用者が訪れる博物館として今後も発展していくことが期待される。

## 外部評価を行った委員

学校教育	長崎康子	神戸市小学校教育実践研修社会科グループ担当課長(白川小学校長)
社会教育	高尾ひろ子	一般社団法人神戸市婦人団体協議会副会長
家庭教育	木原正剛	特定非営利活動法人こうべユースネット理事
市民代表	村上蘭	神戸市ネットモニター
学識経験	原田正俊	関西大学文学部教授
学識経験	黒田千晴	神戸大学大学教育推進機構グローバル教育センター准教授
学識経験	大河内智之	奈良大学文学部准教授
地域団体	松岡辰弥	旧居留地連絡協議会会長

博物館使命の四大要素  
歴史と文化の継承と研究

この要素に対する外部評価

A A A B A B A A

この要素に対する博物館の自己評価 A 優れている

この要素に含まれる事業群と評価

自己評価

		委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F	委員G	委員H	委員I	委員J	委員K	委員L	委員M
資料受入	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)	B	A	S	A	A	A	S	A					
資料保存	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)	B	A	A	B	B	B	A	B					
資料補修	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)	B	A	B	B	B	B	B	A					
調査研究	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)	B	A	B	A	B	B	A	B					

## 歴史と文化の継承と研究

2024年度は、南波松太郎コレクションの追加受贈ができた点、資料保存・修復の点、調査研究の点、デジタルアーカイブの点、学芸員の方々の調査などに対する努力を高く評価するとともに、さらなる前進を期すべく、今後の展示・資料公開に大いに生かしていただきたい。

### 自己評価詳細

2,700件(5000点)を超える南波松太郎のコレクションの追加受贈ができた点は、今年度の大きな成果として評価できる。これによって、コレクションの全体像を見通すことができたこと、コレクションが散逸されることなく館蔵資料となったことの意義は大きい。今後、調査研究を進め、コレクション展示室などで活用していく。

資料保存や補修の点では、日常の地道な作業のなかで十分な保管体制ができています。博物館職員全体の共有と理解を図りながら、引き続き現状の体制の維持に努めたい。調査研究においては、多忙ななかで、各学芸員が取り組んでいる。一方で、研究成果の発信においては、目録や年報などに速やかに編集作業を進める必要がある。

デジタルアーカイブについては、高画質化の取り組みは他政令市博物館と比較しても高い水準で進んでいるが、博物館法にも明記されたことで、今後のあり方を引き続き検討していく。

以上をふまえて、A評価としたい。

- ・自己評価どおりの内容で、A評価です。
- ・「資料の受入」について、結果的にせよ、2723件、5513点の寄贈を受けたことは、S評価とします。収蔵スペースに関するマイナスは、4-01の施設管理の問題と思います。
- ・「資料保存」について、課題と目標をほぼ達成したことでA評価とします。マイナス面について、被害がなかった事、課題については、マイナスとは見ません。
- ・「資料補修」について、課題と目標はほぼ達成と思われませんが、中長期的な視点が必要と思われます。資料補修と機器等の費用見通し等の考え方が見えずB評価とします。
- ・「調査研究」について、もともとレベルが高く、気持ちとしてはB+評価ですが、自己評価どおりの内容で、B評価です。「結果」のとらえ方もあるように思います。

・

- ・来年の南波松太郎コレクションの公開を楽しみにしています。
- ・資料保存・修繕について、海に近く海拔1mという立地から、温暖化(これからさらに湿気を含んだ海風が吹くことが予想される)やこれから起こりうる災害も考慮の上、クラウドファンディングなどで経費を補うことも視野に入れて、力を入れていただきたいです。
- ・調査研究実績について、とても大変な作業と想像しますが、きちんとアウトプットに結びついている点において素晴らしいと感じます。一方で作業の効率化などの課題も散見し、システム面での改善点がみられます。また、デジタルアーカイブについて今後PDF公開だけではなく、VR公開なども視野に入れていただきたいです。
- ・学芸員の方々の調査などに対する努力を高く評価するとともに、さらに前進する余地があるのではないかという問題提起を含めて評価Bとさせていただきます。

・

- ・南波松太郎コレクションの追加受贈は、当館の特色あるコレクションを充実させるものである。今後の展示・資料公開に大いに生かしていただきたい。

・

- ・南波松太郎コレクション2,600件以上を新たに受贈し、また神戸の歴史・古地図・美術に関する館蔵品などのコレクションを充実させたことは大きな成果である。また業務が多忙な中、学芸員の方々が地道に調査研究に取り組み、研究成果の発信に努めておられることも大いに評価できる。
- ・ただし、資料への被害は免れたものの害虫が発生したとのことで、この点に懸念が残る。貴重な資料に被害が及ばないように、今後もモニタリングと対処を徹底し、実害を回避するよう対応していただきたい。

・

- ・南波松太郎コレクションの受け入れは、今後の博物館運営上に大きなインパクトを及ぼすものであり、重要。所蔵者との良好な関係性を構築し続けてきた職員の功績といえ、大きく評価する。

・

- ・南波松太郎のコレクションの追加受贈ができた点は、非常によかったと思います。
- ・資料の保存については物理的に収納量の限界もあると思いますので、博物館外を含めた保管場所や保管方法を検討されてはいかがでしょうか。
- ・従前より課題であった温湿度の管理に、一定の改善がみられたことはよかったと思います。
- ・予定していた資料補修が完了したことは評価できると思います。修復に係る諸経費が高騰しているのは悩ましい問題と思います。(諸経費高騰は博物館に限ったことではありませんが…)
- ・デジタルアーカイブへのアクセス数が減少した理由を見つけるのは難しいと思いますが、SNS等での告知を増やしてみてはいかがでしょうか。



## 歴史と文化への窓口

### 自己評価詳細

新たな取り組みとして特別展「ジブリパークとジブリ展」を実施し、入場者数が目標を大きく上回るなど、大成功をおさめた。今まで博物館に来館しない人が多く訪れたことは、館を認知してもらうきっかけとなったであろう。この点は大いに評価できる。

特別展「神戸の文化財Ⅲ ～今伝えたい、私たちの宝・街・心・技～」では、市内外の貴重な文化財の魅力を発信できた。収支バランスは十分ではなかったが、文化庁の令和5年度「地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業」補助金の活用を図り、採択を得た。

館蔵品を活用した企画展「コレクション大航海 蝦夷発→異国経由→兵庫行」でも魅力発信ができた。今後も時宜に応じて館蔵品企画展の必要性を痛感した。特別展・企画展・コレクション展示・神戸の歴史展示において、SNSを活用するなど、館の魅力の発信につとめていく。

### 外部評価委員コメント

- ・自己評価の内容で、A評価です。
- ・「常設展」について、満足度も高く、マイナス面と機器の不具合の要素などは考慮外で良いと思われるため、A評価とします。
- ・「特別展」について、自己評価どおりの内容でA評価です。「ジブリパークとジブリ展」は広く話題になりました。良かったです。
- ・「企画展」について、2-03-01コレクション大航海 蝦夷発→異国経由→兵庫行の評価になりますが、満足度が高く、収支バランスもとれておりA評価です。
- ・「特別利用等」について、問題なく行われておりA評価です。
- ・「広報」について自己評価の内容でA評価です。
- ・「広聴」について、紙ベース、オンライン形式どちらも「幅広く」お聴きするのは難しいです。何か工夫が必要と思います。B評価です。
- ・「ミュージアムショップ」について、自己評価の内容でA評価です。

- ・普段の生活の中で、博物館の催しに関する情報が目に入ることが増えたように思います。担当者の方の地道な努力とアイデアを感じます。さらに観光客にも訴求するために、合わせて博物館の場所の案内も入れていただけるとより立ち寄り易くなるのではないのでしょうか。
- ・歴史展示室は展示方法に工夫が感じられ、幅広い年齢の方が興味深く観覧できると感じます。市民の生活に近いところに視点を置いているところが 良いと思います。
- ・コレクション展は展示内容は興味深く、時代背景などもわかりやすく解説していただけるとさらに嬉しいです。銅鐸はどんな音が鳴るのか(そもそも鳴らしていたのか)、どのくらいの重さなのかなどの説明があると子供にも分かりやすいかと思います。
- ・ミュージアムショップは「博物館」を意識した攻めたグッズのさらなる開発に期待します。
- ・常設展、特別展共に来場者に魅力的に映るための努力、向上心を評価し、Aとさせていただきます。

- ・「ジブリパークとジブリ展」が成功をおさめたことは、喜ばしい。今後もさらなるチャレンジをしてほしい。また、来館者の数はそう期待できないとしても地域社会・学術的に意義がある展覧会も年間計画の中で、うまく採り入れていくことが必要と考える。

- ・特別展「ジブリパークとジブリ展」が目標を大きく上回る来場者数を記録し、家族連れなど従来の来館者とは異なる層への認知拡大が成功したことは多いに評価できる。
- ・文化庁・令和5年度地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業の補助金を獲得し、民間事業者と連携して、文化財巡り、外国人のための鑑賞会など、多様な事業を展開したこと、収支のマイナス分を補うことができたことも大きな成果だと考える。
- ・また、常設展の音声ガイドに英語版を追加するなど、インバウンド対策を進めた点も大いに評価できる。
- ・SNSでの情報発信を強化することにより、今後も来館者の多様化、多角化を図り、来館者の増加に繋げていただきたい。

- ・特別展「神戸の文化財Ⅲ ～今伝えたい、私たちの宝・街・心・技～」は、神戸市域所在の重要資料を多数集約し、文化財継承の意義を語りかける内容で、大変有益なものであった。地域博物館としての重要な活動であり、大きく評価できる。
- ・常設展でのコレクション展示は頻繁な展示替えを行っており、文化財の情報を市民が共有するための役割を果たしている。

- ・神戸の歴史展示室の音声ガイドに英語版を追加したことは、利用者が2倍近くになったこともあり、有効であったと思います。今後も外国の方々に「神戸」を理解していただく面でも期待できます。英語以外の多言語(中国語や韓国語等)も将来考えてみてはいかがでしょうか。
- ・特別展とコレクション展示の観覧券が別売りの期間(ジブリ展)はコレクション展示への誘導率が極端に低くなっています。「別売り」が原因の一つであることは間違いありませんが、ジブリ展への来館者の特性を考えると、ある程度致し方無いと思います。
- ・「ジブリパークとジブリ展」につきましては、自己評価でも述べられているとおり、今まで博物館に来館しない人に訪れて頂いたことは良かったと思います。弊職も博物館と同じ京町筋で勤務していますが、ジブリの紙袋(グッズ購入)を持っている人を見ない日はありませんでした。あの紙袋もいい宣伝効果があったのではないのでしょうか。
- ・アンケートの回答率を上げたいところですが、基本「3/1000」といわれるように難しい問題です。なにかしらの特典をつけるのが簡単ですが、費用や手間を考えるとそれも難しいかもしれません。
- ・折角作られているオリジナルグッズですので、HP等にもう少し写真を載せてもいいのではないのでしょうか。



## 人々とともに歩む

### 自己評価詳細

年度途中で新型コロナは5類に移行し、博物館を取り巻く学校教育・社会教育などの面が徐々に旧態に戻りつつある。ポストコロナを見据えた事業の展開を検討していく。学校との連携授業については、スケジュール調整によって多くの学校に訪問することができるようになり、裾野が広がったであろう。また、低学年に対して、授業の形態を工夫するなどきめ細かい授業となっている点は評価したい。その他の普及事業では、夜間開館時間に音楽ライブなどナイトタイムイベントを実施するなど新たな取り組みが構築できた。

### 外部評価委員コメント

- ・学校との連携授業は非常に質が高く、子供たちの学習意欲が高まり好評である。
- ・6年生の歴史学習でも図工科でも連携でいただきたいなどニーズは高いので、各校1回ではなくできるだけ訪問回数を増やしていただきたい。
- ・また、3年生の3学期に社会科で旧居留地の学習をする。【博物館見学～旧居留地ウォーク～港めぐり(乗船)】のような校外学習を組んでいきたいので、今後も対応をよろしく願いいたします。

- ・ポストコロナの1年目として広報手段の多様化も含めて、様々なアプローチをもって事業展開を図っており、結果として、まだら模様になったことはともかく、努力のあとが見られ、A評価とします。
- ・「一般向け普及事業(館内オリエンテーションを含む)」について、すべての普及事業で満足度目標数値を達成したことをもって、A評価です。
- ・「博学連携」について、結果はそれぞれながら、次につながる内容と思われます。A評価とします。
- ・「学習支援交流員」について、自己評価どおりB評価とします。
- ・「地域連携・共済事業」について「自己評価の詳細プラス面」の内容から、A評価とします。
- ・広報紙KOBEの広報利用は、市民に広く知らせる効果は高いものの、ある意味利用が難しく、工夫が必要な面があります。
- ・学校に対する広報として、連携授業や学校来館を利用して、児童・生徒向けの博物館の年間事業予定をお知らせする方法はないでしょうか？

- ・コロナ後の人との関わりが試行錯誤の段階にある中で、講演会、会合、さらには博物館を飛び出でのイベントの開催などとても積極的な姿勢を感じます。
- ・文化的な街神戸を子供たちが誇りに思ってもらえるよう、また子供達の成長に街が寄り添えるよう、学校との博学連携にはぜひ力を入れていただきたいです。
- ・情報発信については、対象者によってデジタル発信にするのかアナログ発信にするのかをさらに深く検討することで、より手応えのある反応を得ることができるのではないのでしょうか。
- ・直前でのキャンセル防止、参加人数のコントロール、また建物保全の観点などから、イベントは数百円程度の参加料を課しても良いと思われます。
- ・博物館の役割における責任感、積極性を評価し、ポストコロナにおける今後の役割や活動の広がりに期待をこめて評価Aとさせていただきます。

- ・小学生の段階から博物館・美術館に対する興味を持ってもらうことは大切なことであり、こうした取り組みは評価される。

- ・特に博学連携の項目において、学校との連携授業が目標の100回の2倍に当たる約200回に上り大いに評価できる。博学連携や普及事業は、特に次世代に対する文化資本の継承として非常に重要かつ意義のあることであると思うので、今後も継続して実施していただきたい。
- ・また、イベント申込時にオンライン対応が苦手な方のために、コールセンターを活用するなど多様な人々のニーズに寄り添った対応をされたことは素晴らしいと思う。
- ・夜間開館時間での音楽ライブ、ナイトタイムイベントなど、旧居留地に立地する利点を生かした魅力的な催しを実施したことも大いに評価できる。

- ・博学連携のうち、連携授業177回は博物館の存在意義を学校教育に強くアピールできるものであり、重要な取り組みといえる。

- ・新型コロナの5類移行により、各事業の参加者が増加したことは喜ばしいことと思います。
- ・連携授業が目標を倍近く上回る回数を実施できたことはとても有意義であったと思います。10歳に満たない子供たちに授業を行うのは難しいとは思いますが、必ず子供たちのためになりますので、是非継続取り組みをお願いします。
- ・移動博物館車「おきしお夢はこぶ号」の稼働回数をもう少し増やす工夫をされてはいかがでしょうか。稼働が延べ22回では少しもったいない気がします。
- ・地域連携・共済事業は手間がかかると思いますが、有効な事だと思いますので、継続的な取り組みをお願いします。(旧居留地連絡協議会の活動に対しても、ご理解・ご協力をいただき、感謝申し上げます。)



## やさしさと安心の確保

### 自己評価詳細

博物館に求められる役割が多様化するなかで、市と事業者で連携しながら、求められる役割を十分に果たした。加えて令和5年度は大規模改修を行い、来館者により良いサービスが提供できるよう取り組んだ。引き続き、日々の業務のなかで来館者の目線に立ったサービスが提供できるよう、常日頃から心掛けることが重要である。

### 外部評価委員コメント

- ・自己評価どおりの内容で、A評価です。
- ・中長期的視点として、建物、設備自体の具体的な老朽化対策、「全体として」等のあいまいな内容ではなく、具体的にどうするのか、についての内容と、「1. 歴史と文化の継承と研究」の部分と関連しますが、収蔵スペースの確保・資料の保管、資料受け入れと各資料の調査研究について、具体的な計画性・方向性を明示する必要があると思われます。この点で、施設管理の評価は、B評価です。
- ・また、4-02から4-04について、特に年間を通じて問題ない状況であれば、A評価で良いと思われます。多数の来館者がある中、平穏無事を維持することは、必ずしも当たり前ではなく、相当な日々の努力の積み重ねの結果と考えられます。
- ・緊急時対応のB評価は、「当時の経験などの伝承」について、震災30年を念頭に今後の貴館の取組みに期待するとして、あえてBとさせていただきます。

- ・昨年度の大規模改修により、街の博物館が美しくなったことを市民としてとても嬉しく感じています。以前抱いていた なんとなく暗いイメージが払拭されました。
- ・インフォメーション、カフェなどはそれぞれに素晴らしいですが、そこに至るまでの動線に改善の余地を感じます。
- ・人が少ない時でもチケットブースにつながるたくさんの誘導ロープが置かれているなど、折角のエントランスの広さが活かされていないように感じられることがあります。
- ・また展示の観覧途中で通る廊下や階段に、カフェがあること、またそこで食べられるメニューなどを提示することで、立ち寄る人が増えるのではないのでしょうか。
- ・美しい博物館が長く続くよう、日々のメンテナンスを怠らないでいただきたいという願いを含めて 厳しく 評価Bとさせていただきます。

- ・大規模改修が行われたことは良かった。古い建物なので継続的なメンテナンスが必要であり、今後とも予算措置上、行政の理解が必要である。

- ・大規模な施設更新工事を滞りなく完了したことは大いに評価できる。
- ・インフォメーション、ショップ、カフェなどでの来館者の視点に立ったサービスの提供、警備、清掃、緊急時対応等、全て適切に実施されたことは評価できる。

- ・大規模改修工事が特に大きな問題もなく実施できたことは、計画段階から実際の施工時まで関連各所や施工業者ときっちり連携ができていたためと思います。
- ・警備や清掃は、普段見ている限り特に問題は感じませんでした。